

「協働の実践を学んで、地域活動をステップアップ」

福岡県協働力向上セミナー運営事務局
特定非営利活動法人 えふネット福岡
専務理事 蓼原 典明

1. なぜ、“協働”による取組が注目されているのか？

①. 地域の課題が多様化し、**公共サービス**の需要が拡大

- ・高齢化、少子化、コミュニティの希薄化、空家・空店舗等々
- ・**“モノ(物)”**の豊かさから**“ココロ(心)”**の豊かさを求める意識

②. NPO法人、ボランティア団体の増加による市民活動活発化

- ・**地域の課題の解決**に向けた積極的な活動意欲
- ・**新しい社会システムの創出**に向けた取組

③. 高度経済成長⇒低成長時代へと変化

- ・**税収減等、限られた予算(財源)での対応の限界**
- ・**行政サービス(公助)と、公共サービス(共助)の枠組み**の理解
※**公共サービスの必要性が行政サービスの枠を超える**

1. “協働”に対する**理解不足**

①. “協働”について知らない等、意味・目的が知られていない

- ・公共サービスは、行政に責任との従来型の考え方
- ・市民が主体的に関わる事により、得られる“協働”の達成感

②. 協働に関する**情報・交流の不足**

- ・協働の主体（NPO法人、ボランティア団体、企業、行政等）に関する目的、特徴の相互理解不足
- ・協働の主体との交流機会コミュニケーションの不足

③. NPO法人、ボランティア団体の**課題**

- ・代表者等、特定のメンバーへの過負荷（業務、活動資金等）
- ・事業拡大に向けた期待と、事業企画立案力不足の現実

1. 成熟社会(低成長)の進展について

昭和55年(1980年)

平成22年(2010年)

・心の豊かさ	42.2%	⇒	60.0%
・物の豊かさ	39.8%	⇒	31.1%

出典:国民生活に関する世論調査(内閣府)

2. 日本の人口推移

昭和55年(1980年)

平成22年(2010年)

・年少者(~14歳)	27,507,078	⇒	16,803,444
・生産年齢人口 (15歳~64歳)	78,834,599	⇒	81,031,800
・高齢者人口 (65歳~)	10,647,356	⇒	29,245,685
※生産年齢/高齢者	7.4人	⇒	2.8人

出典:国勢調査(総務省)

“人生60／65年”⇒“人生90年”の人生設計

1. 日本人の平均寿命の延伸

・1956年：男64歳、女68歳 ⇒2010年：男79歳、女86歳

※国連が65歳からを高齢者と定義 ※平成23年厚生労働省「簡易生命表」

2. 全体の約80% ⇒要介護、要支援認定を受けていない高齢者

3. 多くの高齢者が働くことや社会への貢献を希望（就業意欲）

・働けるうちはいつまでも 36.8%

・70歳くらいまで 23.0% ⇒健康寿命（男70歳、女73歳）

・75歳くらいまで 8.9%

・76歳以上 2.4% 合計71.1%

※平成20年内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（60歳以上調査）

4. 高齢者の社会参加活動

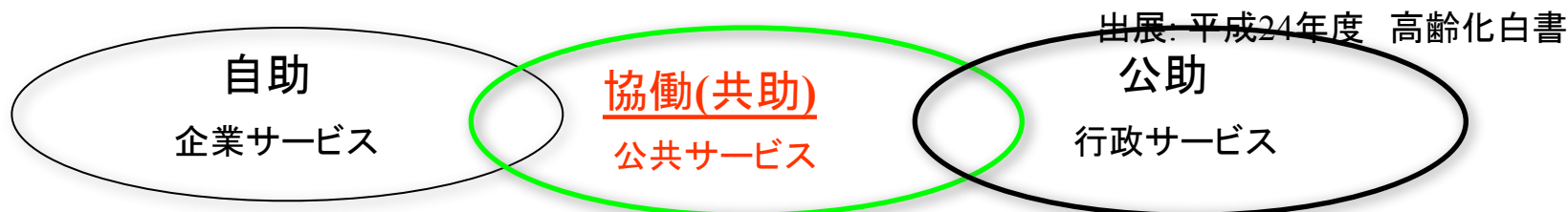
・グループ活動に参加は約60%

・今後の参加意向について、「参加したい」「参加したいが、事情があって参加できない」と回答は、約70%

日本の総人口 1億2,780万人(平成23年10月現在)
65歳以上の高齢者人口 2,975万人, 総人口比 23.3%
平成72年には、2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上

※ 高齢者の経済状況

- ①. 暮らし向きに心配ない高齢者 約7割
- ②. 高齢者世帯は、世帯人員一人当たりの年間所得が全世帯平均と大きな差がない
 - ・世帯一人当たり 高齢者世帯: **197.9万円** 全世帯平均: 207.3万円
- ③. 世帯主が65歳以上の世帯では、一人当たりの支出水準は全世帯平均を上回り、
 - ・世帯主が65歳以上: **129.4万円** 全世帯平均: 120.1万円
 - 貯蓄は全世帯平均の1.4倍 (2,257万円)。



“協働”による地域活動で、魅力的な”人生90年”を発見!!

1. 福岡県共助社会づくり表彰

①. 協働部門賞	7件	28団体
②. 地域貢献部門賞	12件	12団体
・NPO、ボランティアの部	6件	6団体
・企業の部	2件	2団体
・その他団体の部	4件	4団体
③. 共助社会づくり奨励賞	2件	5団体

2. NPOと企業との協働促進のための交流会・面談会事業

①. 社会貢献活動に取り組む企業との協働事業企画案募集

3. 協働事例を知りたい ⇒ [福岡県・ホームページ](#) (冊子、情報)

①. “新しい協働のケース100”

②. “ふくおかNPO50”

③. 平成25年度ふくおか共助社会づくり表彰事例等

1. 福岡県認証のNPO法人数

平成11年 ⇒ 平成15年 ⇒ 平成20年 ⇒ 平成25年7月末
51団体 494団体 1,248団体 1,687団体

2. NPOと行政との協働件数

平成14年 ⇒ 平成18年 ⇒ 平成24年

・福岡県	67件	123件	143件
・市町村	268件	744件	1,369件

3. 協働の手法(パターン)

①. **支援型** ・金銭面 “寄付” ・人員面 “人材力” ・物品面

②. **事業型** ・協働事業の実施 “信用力” “企画立案力”

4. 協働のメリット(NPOの場合)

①. ミッションの実現 “自らの情報発信”

②. 信用性の向上による会員や寄付等の拡大 など

市民活動型と事業型の違い

	市民活動型NPO・NPO法人 (NPO・ボランティア)	事業型NPO 法人 (NPC)
目的	ミッション(社会的使命)の実現	ミッション(社会的使命)の実現
組織目標	有償・無償の社会サービスの提供 (ボランティアとしての参加)	継続的運営・経営に必要な事業収益の確保 雇用の創出、多様・柔軟な雇用機会の創出 地域活性化、地域経済活性化
人的資源	ボランティア	有給常駐職員、契約スタッフ、サポーター 有償ボランティア
背後にある知識	市民参加・コミュニティ形成・自己実現・自 発性・柔軟性(対象の非限定・自由参加)	専門性・企画力・戦略性(事業対象の限定)・ 組織経営・協働・企業CSR
受益者	一般市民→連帯感、信頼、コミュニティ	一般市民・社会・企業、顧客として対象化 ※地域貢献・社会貢献意識
資源調達	会費、寄付金を中心、行政の助成	国・行政の公募事業(補助金等)、委託事業 自立事業収益 寄付金、会費

※この表は、極端な例かもしれませんが、現実にはこの両方の性格を備えているNPOがほとんどでしょうが、どちらに重きを置くかによって団体・法人の性格が異なってきます。

1. “協働”を具体化する “4つ” のステップアップ

①. 自分たちの“やりたい事”からのステップアップ

- ⇒ 国・県・市町村の施策の理解
- ⇒ 地域、社会の課題の理解と向き合う当事者意識
- ⇒ 自らの専門性のブラッシュアップ

②. “できない理由”からのステップアップ

- ⇒ “できる事”を見つける
- ⇒ “できる為の”条件“を見つける

③. 発想の柔軟さのステップアップ

- ⇒ “右脳”の役割、可能性を引き出す

④. 仲間を増やすステップアップ

- ⇒ 人に“好かれる”人間力
- ⇒ “信頼”は、仲間を増やす“鍵”

地域が自律して街づくりができる時代が

21世紀に到来!! (21世紀の地域経営とは?)

20世紀は、国・市町村が主体となり都市計画を立案し予算化され、住民は提供された社会システムで生活をする。

また、住民からの過大な生活利便性の要求も? 否定できないのでは。

⇒ 住民は与えられた社会システムを利用する立場。 “人間力の低下”

この場合は、住民が自律して考える必要が限られ、行政に依存した考えがベースになってきた行政依存型社会。 ⇒ 20世紀型行政経営の弊害

21世紀は、住民及び地域が主体となり自律した街づくりを考えられる時代。国・市町村は、社会起業家が考える街づくりを支援するソフト面の整備を行い、地域・企業・大学・行政・NPO・NPO法人が協働して取り組む活動を支援。

⇒ 住民意識の変革による、自律した新社会システムを創出する時代。

この場合は、地域・住民が自律して考えることが基本となり、住民参加型の新社会システムを創出し、生活の満足度を高める自律型社会。

①. 消費者の社会的責任 (CSR: Consumer Social Responsibility)

②. 市民の社会的責任 (CSR: Citizen Social Responsibility)

● 葉山ヘルスケア省エネ共和国(宗像市葉山住宅地)

1970年に住宅地開発された葉山地区の住民は、520世帯約1400人。

葉山ヘルスケア省エネ共和国 (健康に、省エネも考えて)

⇒ 葉山省エネ共和国の建国 平成17年2月24日建国 ※8年間の継続性(課題)

(大統領、省エネ大臣の役職を任命)

○高齢化が進む福岡県宗像市のベッドタウン “高齢化率46%”

地域、企業、行政が協働して取り組む、まちづくりのモデルケースを目指す。

[葉山くらしの友] ○健康と省エネに関する情報冊子を全世帯に配布(平成18年3月)
※宗像市「人づくりでまちづくり事業補助金」を活用

[共和国の憲章] ○高齢者から子ども達まで、安心して快適に暮らせる「葉山」
健康で明るく楽しい「葉山」
住んでみたい、住んでよかった「葉山」にしよう。
○エネルギーやエコロジーを考え、
便利な生活を、少しだけ手間をかけ、
地球を長生きさせ、子孫に残そう。

[今後の課題] ○ 街の若返りサイクルの動きと共に、組織の若返り・世代交代
※宗像市「世代間交流ささえあい事業」モデル地区

[採択事業名]

- ECO Carnival2013 実行委員会
～ 宗像、福津、岡垣 一斉ビーチクリーンアップ ～

[協議体の構成団体]

- ①. NPO法人改革プロジェクト
- ②. MANAジュニアライフセービングクラブ
- ③. グッドホーム株式会社
- ④. がんばれ宗像
- ⑤. 福岡教育大学
- ⑥. eco愛
- ⑦. 岡垣町役場住民環境課
- ⑧. 福津市地域生活部うみがめ課
- ⑨. 宗像市市民協働・環境部環境課、宗像地区コミュニティセンター運営協議

[取組概要]

玄海灘の海岸漂着物などのゴミに対し、行政の垣根を越えて、若い世代が環境保全に取り組んでいく体制を構築する取組。宗像市、福津市、岡垣町において、若者が中心となり、音楽や料理を楽しみながら、海岸の一斉清掃活動を実施。

地域活動をステップアップする“協働”は、過去の既成概念から意識を変える「意識のチェンジ」が必要です。

キーワード: 地域力・人間力

[協働に必要な意識のチェンジ] ⇒ 協働の主体 “住民・地域・企業・行政・NPO法人・NPO・大学等“

- | | |
|--|--------------------|
| ①. 信頼関係を築き、認め合う
お互いを知り、理解する、批判しない | <u>受容・合意形成</u> |
| ②. 力を持ち寄って組み合わせる
それぞれの得意な面を発見する | <u>ネットワーク・チーム力</u> |
| ③. 地域で協働する
顔と顔の見える関係 | <u>見える化</u> |
| ④. 話し合い、納得する
話し合いを重ねて、共通の目的を発見、合意、実行、評価 | <u>前向きなアプローチ</u> |

協働の実践に欠かせない人間力

批判、批評、できない、極端な反対等のマイナス指向より、
協調、建設的な解決に向けた創意工夫!! “**プラス思考**”

[人に好かれるキーワード]

- ・明るい、知的、活動的、冷静、頼れる、おだやか、優しそう
安心感、寛容、温かい、真面目、清潔感、さわやか 等

[人に嫌われるキーワード]

- ・調子がいい、甘ったれ、頼りない、弱々しい、不潔感、固い、
怖い、威圧感、生意気、冷たい、無責任、神経質、陰湿 等

※コミュニケーション力を磨く（聴く、伝える、関わる）
相手の話を聴く。正しく伝える。前向きに関わる。
相手(人・組織等)の良い面を見つける。欠点への寛容。

地域力とは、地域の社会システムを地域に住む人たちが自らの力で考え創出する知恵と努力の基盤により成り立つ力です。

[地域力の低い生活地域]

- ・地域住民は、自分勝手な生活を行い、コミュニティが破壊。
- ・人助け、助け合い等の日本古来の文化が消滅した地域。
- ・空き巣、悪のたまり場等犯罪の多い地域。
- ・苦勞して築いた個人の財産価値が下がる一方の地域。

※ 結果、国力の衰退、個人の財産価値の下落

[地域力の高い生活地域] ※消費者・市民の社会的責任(CSR)

- ・地域住民が助け合いの精神を持って生活する地域。
- ・地域が活性化する良好なコミュニティを形成する地域。
- ・空き巣等の犯罪が無くなった、犯罪を抑制する地域。
- ・個人の財産価値が高まり、子ども達や若者が住みたい地域。

協働の実践に必要な“**地域資源**”は、日頃、何気なく生活している環境下では発見されない事がある。なぜ！？

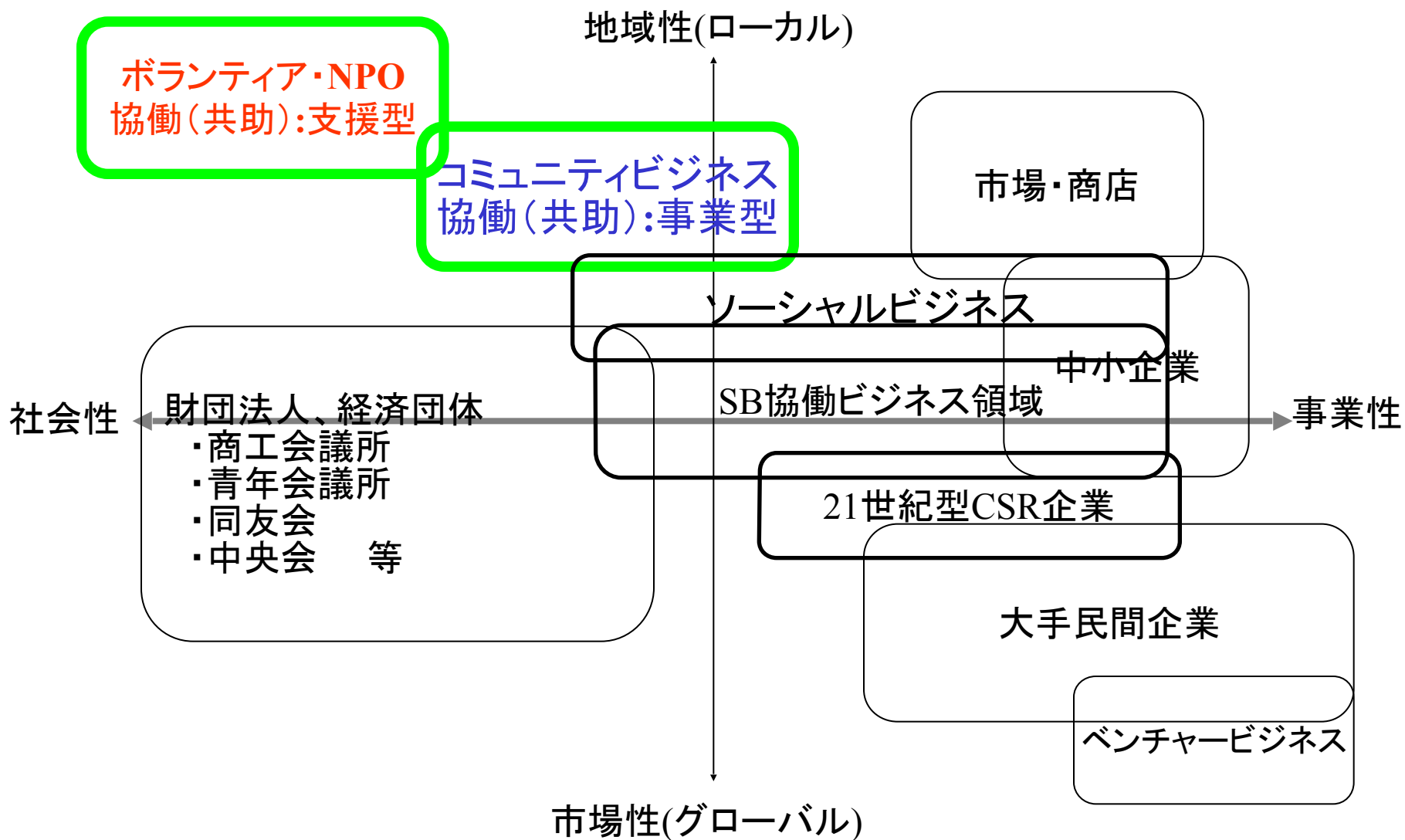
[地域資源の発見!!]

- ・商店街の空き店舗（通称:シャッター通り）
⇒ 事業(企業)として見れば“-”の資源となるが、安く賃貸されたり、
新しい発想が受け入れられたりする
- ・高齢者、高齢化地域
⇒ 経験が豊富、時間とお金に余裕、空家活用等活動実施フィールド
- ・障がい者
⇒ 障がいを個性と捉え、健常者以上の結果を表わす可能性

[最初の一歩]

- ・早朝、昼間、夕方の地域の様子 “目的を持った散歩”
- ・地域の変化等に関心を持つ “地域の自慢発見”
- ・地域の幅広い世代とのコミュニケーション “課題の発見”

1. 社会性と事業性



- 確立した定義があるわけではありませんが、一般的には地域住民が中心となって、コミュニティの多様で個別的なニーズに応えるために地域において展開する適正規模な事業のことを指しています。利潤の最大化を目的とするのではなく、あくまで生活者の立場に立って地域が抱える課題の解決を図っていこうという社会性の高い事業と言えます。

※地域課題解決型の住民参加公共事業

- 地域住民に有益なCBが創出・運営されていくことは 地域を元気に するために非常に重要なことです。

※公共サービスの拡大期待

[コミュニティビジネス(CB)の特徴]

- 「コミュニティ(社会性)」と「ビジネス(事業)」のバランスが必要
 - ⇒ 課題解決型持続可能事業の創出（ボランティアとは異なる事業）
 - ⇒ 地域活性化をサポートする公共サービスの創出
 - ⇒ 多様な雇用機会の創出（短時間等柔軟な働く場）
 - ⇒ 地域力・人間力(優しさ、いたわり、心づかい)の高まりが目的

※サービスを継続するために必要な活動費(事業費)を獲得する知恵

自分の考える“CB”（協働事業）は、どんな役割と立ち位置の事業ですか？。 立ち位置を決める!!

- 事業規模は？。生活＋ α ？、生き甲斐重視？。
- 雇用する人数は何人？。（多様な雇用機会）
- 事業継続に必要な経費は？。
- なぜ、“CB”を思い起ちましたか？。
- 一緒に取り組めるパートナー(新友)はいますか？。
- 時間は取れますか？。調整できますか？。
- 自己資金は用意できますか？。

※ “CB”の事業範囲は幅が広い。“SB”までの可能性。

必要知識・ポイント

1. 協働実践の基本理解

①. 自分・団体の”**やりたい事**”ではなく、協働する相手の求めている

“**課題の解決を目的**”とする。

⇒ 日頃から、協働の可能性を考え、“**情報収集**”に努める

⇒ 地域・行政・企業の”**役割と特徴の理解**”

⇒ 国・行政施策の理解

2. 協働実践の企画・提案要素 “福岡県協働事業提案要素”

①. 事業の目的 “社会的な課題”

②. 事業概要 “具体的な提案内容”

③. 保有する専門性 “活動実績、専門領域”

④. 提案企画に関する発想力、革新性、展開性(事業性)、自律可能性

⑤. 協働パートナーとの役割分担 “Win Winの関係”

⑥. 協働事業実施スケジュール

⑦. 協働事業に必要な経費 - Net “提案事業に係る経費” served

グループ・ワークのスケジュール予定(グループ数により変更)

1. グループ編成 ”5グループ以内（6人以内/グループ）” : クジ引き
 - ・ 発表者、進行管理者 2役選任
2. 地域の課題を発見し、解決に必要な条件の引き出し
 - ・ 自己紹介 : グループでの自己紹介 一人「60秒以内」を守りましょう。
 - ・ 身近な地域の「課題」と「条件」を Post-itカード に記載
 - ※ Post-itカード 一枚に一つの「内容」を簡潔に記載
 - ・ 模造紙に、記載した Post-itカード を「貼り付け・整理」
 - ・ 他のグループに移動し、他のグループの「情報を理解」
 - ・ 「条件」について、Post-itカード に記載し「追加・貼り付け」
 - ・ 元のグループに移動

[検討課題の選択]

 - ・ 2役が進行役となり、“一つ地域の課題を選択” ディスカッション
3. 発表 1グループ「2分以内」
 - ・ グループ発表 “一つ選択された地域課題と条件”
 - ・ 講師: 総評、まとめ